

講評

I

出典 渡辺 裕「日本文化 モダン・ラブソディ」

大正から昭和期の日本近代文化の変遷について音楽を中心に論じた本です。本文はやや長いですが、特に内容的に難しいことは書かれていませんので、内容の理解は容易でしょう。

問1【漢字の書き取りの問題】(解答番号は①～⑤)

「机上」はほとんどの人が書けていましたが「大所高所」の正答者はごく少数でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は⑥・⑦)

空欄①は「取り合わせは…ミスマッチ」「甥の土行の誘い」が、空欄②は「エールを送っている」がヒントとなります。正答率はそれぞれ51%、30%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】(解答番号は⑧)

第1段落に逍遙の甥・土行が宝塚少女歌劇のスタッフであったことが書かれており、逍遙自身も宝塚に対して期待していたことを踏まえれば正答できます。正答率は28%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑨)

第6・7段落をよく読んで選択肢を十分に吟味すれば正答が導けます。正答率は39%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑩)

傍線部Bの4行前から本文をよく読めば難しくありません。正答率は68%でした。

問6【指示語の内容を考える問題】(解答番号は⑪)

前後をよく読めば指示語の内容は容易につかめるはずです。正答率は66%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑫)

傍線部Dの2～4行先の説明がヒントとなります。正答率は76%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑬)

直前の文の内容を十分に踏まえれば正答が得られます。正答率は72%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑭)

傍線部Fの直後に書かれていない選択肢を選べばよいだけです。正答率は65%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑮)

③を選んだ人が多数いましたが、「国際性に富んだ」が本文の内容と異なります。直後の2つの文を丁寧に読めば正答が導けるはずです。正答率は27%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は16）

②あるいは④を選んだ人が多数いました。この節では「日本の歌劇」や「歌舞伎劇の『国際化』」よりも坪内逍遙と宝塚少女歌劇の関係とりわけ逍遙の宝塚少女歌劇に対する期待や評価を中心的に取り扱っています。本文を丹念に読んで、この点を押さえることができれば正答は③だと導けます。正答率は7%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は17）

この節をよく読めば宝塚歌劇と歌舞伎改良を中心に話が展開していることがわかるはずですので、正答は導けるでしょう。正答率は35%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答率は⑦が44%、⑧が34%でした。①や②、④を選択している受験者が散見されました。①は「ストーリーの支離滅裂さを克服さえすれば」が、②は「坪内逍遙から受けた影響」が、③は「宝塚少女歌劇の『歌舞伎改良』路線に触発されたため」が本文の内容に合致しません。④は「初めて」、⑤は「純粹西洋式のオペラに改良」が本文の内容と相違しています。⑥は「成熟した男女による本格的歌劇への展開を目指していた」が、⑨は「あくまで『商売人』としての理由から」が不適切です。

II

出典 川崎 謙 著「神と自然の科学史」

「科学」と「技術」との関係について述べた文章です。日頃からよく聞く言葉ですが、それを異なる観点で使用しているのが、受験者の中には戸惑いを覚えた人もいたようです。しかし、限られた試験時間とはいえ、「科学」「技術」がそれぞれ文章中で何に置き換えて説明されているかを読み取れば、内容自体は難しくありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～26）

a 素朴 b 精魂 c 洗礼 d 内省 e 言及 f 融通 g 周到

いずれも難解な漢字ではありません。なお、出題の傍線部カタカナを読み間違えている人がいました。焦って書く必要はありませんので、落ち着いて解答しましょう。書き取りの練習を日頃から心掛けるようにしましょう。

問2【空欄補充・文脈把握】（解答番号は27～30）

空欄Ⅰは次節の3段落にある「認識が技術化されたことにあり」を押さえれば、正答は導けます。正答は①です。空欄Ⅱは同節を読めば正答は④となります。空欄Ⅲの次段落に「この感じ～ふさわしいものです」とあるのがヒントです。正答は③です。空欄Ⅳは前文の理由となっているので正答は⑥となります。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は31）

「梘子の制作は技術」「梘子の便利さは梘子の原理の説明などとは無関係に普遍的」と直前にあります。空欄アは「技術」に関わることを述べており、正答は⑥です。正答率は44%でした。

問4【文脈把握と内容理解】（解答番号は32）

技術は「何かを作ること」であると問題文冒頭に書かれており、「複製を作る」とは技術のことです。これを踏まえれば正答は④です。なお複製を作ることは融通無碍ではありません。

問5【文脈把握と内容理解】（解答番号は33）

傍線部Bの直後の段落が理由になっています。この内容に沿っている選択肢④が正答です。①「手近」②「基盤は非常にもろく」③「権威付けのため」⑤「見えるような形にする」⑥「必然的」が、それぞれ本文では言及されていない箇所です。正答率は55%でした。

問6【文脈把握と内容理解】（解答番号は34）

梘子は実物が存在してから理論ができたということが本文中で述べられているので、その内容と対立する選択肢が正答です。正答率は54%でした。

問7【小見出し・内容把握】（解答番号は35）

これまでの文脈と異なり、技術から認識ではなく、認識から技術という流れもあることを本段落では述べています。正答は④です。正答率は25%でした。

問8【内容合致問題】（解答番号は36・37）

正答は④・⑦です。②「科学は軽んじられている」③「西欧自然科学の傍流に」、⑤「どこの国の人よりも深く知ることができる」⑥「成果が認められる可能性は低い」がそれぞれ間違いです。2問とも正答した人は27%でした。